日本思想史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 ｾﾒｽﾀｰ	曜日	講時	頁
日本思想史特論Ⅰ	変容する死後世界の光景ー日本列島の死生観	２	佐藤　弘夫	2学期	金	１	1
日本思想史特論Ⅱ	日本思想を再発明する	２	片岡　龍	1学期	火	４	2
日本思想史特論Ⅲ	新聞メディアから見た明治前期思想	２	岡安　儀之	1学期	金	２	3
日本思想史特論Ⅳ	戦後日本思想史再考	２	宇野田　尚哉	集中（1学期）			4
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	２	佐藤　弘夫. 片岡　龍	1学期	水	５	5
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	２	佐藤　弘夫. 片岡　龍	2学期	水	５	6
課題研究 （日本思想史）		４	佐藤　弘夫. 片岡　龍	通年	水	４	

科目名：日本思想史特論Ⅰ／ History of Japanese Thought(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 金曜日 １講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤　弘夫（教授）

講義コード：LM25101, **科目ナンバリング：**LHS-PHI601J, **使用言語：**日本語

１．授業題目：

変容する死後世界の光景ー日本列島の死生観

２．Course Title（授業題目）：

Changing Concept of the World after Death in Japan

３．授業の目的と概要：

死は人類にとって最重要の課題であり、日本列島についても各分野で膨大な研究 が蓄積されてきた。しかし、従来の研究においては、一つの時代を超えた視点や列島以外の地域に向けられた眼差しはほとんどなかった。私たちはいまだに古代から現代に至る、列島の死後世界の全体的なイメージを共有できないでいるのである。

今年度の授業では、そうした現状を踏まえ、1、日本列島における死後世界の表象とその変遷を通時代的・総体的・立体的に解明し、その成果を国際的に通用するフォーマット化して世界に発信可能にすること、2、その技法を他地域にまで適用可能な「方法」として練磨することによって、国際的な比較研究の可能性を追求すること、 3、広いコンテクストの中に現今の死生観や葬送儀礼の変動を位置付け、その意味を読み解くことによって、ターミナルケアや看取りなどに関わる今日的課題に対して具体的な提言を行うこと、の３点を基本目的とする。

４．学習の到達目標：

日本列島の死生観と死後世界のイメージが時代によって大きく変化していることを理解するとともに、その変動の先にある現代社会が、死生観という視座から見たときどのような特色を持つ時代であるかを考える。

５．授業の内容・方法と進度予定：

１．ガイダンス
２．～４．　古代の死生観
５．～７．　中世の死生観
８．～10.　近世の死生観
11. ～14.　近現代の死生観
15.　まとめと討論

６．成績評価方法：

レポート［80%］　出席［20%］

７．教科書および参考書：

プリントとスライドを使用する。参考書は授業において指示する。

８．授業時間外学習：

授業において指示する。

９．その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought(Advanced Lecture)II

曜日・講時：前期 火曜日 ４講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：片岡　龍（准教授）

講義コード：LM12402, **科目ナンバリング：**LHS-PHI602J, **使用言語：**日本語

１．授業題目：

日本思想を再発明する

２．Course Title（授業題目）：

Re-inventing Japanese thought

３．授業の目的と概要：

説話・オーラルヒストリー・探検という観点から、「人類」・「歴史」・「文明」概念の再構築を試みた研究（Ａ杉山和也『南方熊楠と説話学』、Ｂ保苅実『ラディカル・オーラルヒストリー』、Ｃ梅棹忠夫『日本探検』）を参考にした発表をもとに、討論をとおして日本思想史の方法論的自覚を促す。

４．学習の到達目標：

思想史における「経験」の意義の理解を共有し、共時的・地域学観点からの日本思想史の技法を検討する。

５．授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・討論形式で進めます。

第１回： ガイダンス
第２回：Ａ 南方熊楠と説話学
第３回：Ａ 南方説話学から見た日本思想史の可能性
第４回：Ｂ オーストラリア先住民における「歴史実践」
第５回：Ｂ オーストラリア先住民における「歴史経験」
第６回：Ｂ 日本思想史における「歴史実践」の可能性
第７回：Ｂ 日本思想史における「歴史経験」の可能性
第８回：Ｃ 日本文明と教育（福山誠之館）
第９回：Ｃ 日本文明と宗教（大本教）
第１０回：Ｃ 日本文明と開発（北海道独立論）
第１１回：Ｃ 日本文明と自然（高崎山）
第１２回：Ｃ 日本文明と交通（名神高速道路）
第１３回：Ｃ 日本文明と二重構造（出雲大社）
第１４回：Ｃ 「文明論的探検」から見た日本思想史の可能性
第１５回：ＡＢＣ 日本思想史における地域学の可能性
定期試験：なし

６．成績評価方法：

平常点 70%（出席 30%、発表・討論 40%）、レポート 30%

７．教科書および参考書：

教科書：授業中に適宜資料を配付します。

参考書：『ヨーロッパの昔話』（マックス・リュティ、岩波文庫）、『歴史の方法について』（小谷汪之、東京大学出版会）、『近代世界における日本文明』（梅棹忠夫、中央公論新社）

８．授業時間外学習：

担当する発表準備を中心に、各回ごとの教科書・参考書の指定箇所等を併せて学習する。

９．その他：

科目名：日本思想史特論Ⅲ／ History of Japanese Thought(Advanced Lecture)III

曜日・講時：前期 金曜日 ２講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：岡安　儀之（助教）

講義コード：LM15201, **科目ナンバリング：**LHS-PHI603J, **使用言語：**日本語

１．授業題目：

新聞メディアから見た明治前期思想

２．Course Title（授業題目）：

Thought of early Meiji era from newspapers

３．授業の目的と概要：

これまでの明治前期思想研究において、その中心となってきたのは、「啓蒙」や「民権」と名の付くような著名な思想家と呼ばれる人物であり、またそれらが集い意見し合う学術や政治に関する結社であった。つまり、この授業で取り上げる新聞や新聞記者は枝葉の存在とされてきたと言ってよい。しかし、近代的議会制度の成立していない明治前期において、新聞は極めて重要な政治的コミュニケーションの場であり、新聞という政治文化をいかに社会に定着させるかは、当時の知識人達の課題でもあった。この授業では、そうした研究動向を鑑み、明治前期の新聞メディアに光を当てていく。具体的には明治期の著名な新聞記者である福地源一郎（桜痴、1841～1906）と福沢諭吉（1835～1901）という近代日本を代表する思想家を比較することで、明治思想史の再検討を行う。

４．学習の到達目標：

時代の転換期に明治知識人たちが向き合った思想課題を、文献史資料に即して分析説明できるようになる。

５．授業の内容・方法と進度予定：

１）オリエンテーション
２）「新聞記者」の誕生①
３）「新聞記者」の誕生②
４）「新聞記者」の誕生③
５）政論新聞化と言論界の変容①
６）政論新聞化と言論界の変容②
７）士族と平民①
８）士族と平民②
９）士族と平民③
10）華士族をめぐる論争①
11）華士族をめぐる論争②
12）明治前期の自治論①
13）明治前期の自治論②
14）明治前期の自治論③
15）まとめ

６．成績評価方法：

レポート［60%］
平常点（コメントペーパーをもとに授業への参加度や貢献度をみる）［40%］

７．教科書および参考書：

教科書：特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書：授業時に適宜紹介する。

８．授業時間外学習：

授業で配布したレジュメをもとに、復習すること。また、授業の中で紹介する書籍を積極的に読むこと。

９．その他：

授業では、毎回感想や質問を記すコメントペーパーを用意し、それを中心に対話形式で進めていく予定である。コメントペーパーの提出は自主性に任せるが、それをもって平常点を判断するので注意すること。

科目名：日本思想史特論Ⅳ／ History of Japanese Thought(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1 学期），　**単位数：**2

担当教員：宇野田　尚哉（非常勤講師）

講義コード：LM98802，　**科目ナンバリング：**LHS-PHI604J，　**使用言語：**日本語

１．授業題目：

戦後日本思想史再考

２．Course Title（授業題目）：

Rethinking Postwar Japanese Intellectual History

３．授業の目的と概要：

戦後史・戦後思想史の大まかな流れを把握するとともに，重要な出来事・人物・テキスト等についての基礎的な知識を蓄える。戦後史の各時期に，どのような歴史的背景のもとどのような問題についてどのような立場の人が何を考えたか，俯瞰的に把握する。

そのうえで，現状のさまざまな問題について自分の意見を持てるようになることを目指す。

授業は，通史的概観と個別のトピックについての講義を組み合わせるかたちで行う。

４．学習の到達目標：

⑴戦後史上のとくに重要な出来事を挙げ，説明できる。

⑵戦後思想史上のとくに重要な人物やテキストを挙げ，説明できる。

⑶戦後思想史のおおまかな流れを説明できる。

⑷現在の日本が抱える思想的課題を指摘し，自分の意見を述べることができる。

５．授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：課題・方法・資料
2. 「戦後」の始まり
3. 朝鮮戦争と日本
4. さまざまな「55 年体制」
5. 1960 年前後の日本
6. 高度経済成長と日本社会
7. 1960 年代後半の日本
8. 「戦後」日本とアジア
9. 「戦後」日本とマイノリティ
10. 「戦後」日本とジェンダー
11. ポスト高度成長期の日本：1970 年代
12. 「強い円」の時代：1980 年代
13. 冷戦構造の解体と日本：1990 年代
14. 「失われた 20 年」と現在：まとめにかえて
15. 試験

６．成績評価方法：

授業中に課すリアクション・ペーパー40 点，試験 60 点

７．教科書および参考書：

教科書は指定しない。ハンドアウトを配布する。参考文献は初回の授業の際にまとめて紹介する。

８．授業時間外学習：

事前に reading assignment を配布するので読んでおくこと。

９．その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅰ／ History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 ５講時

学期：1学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤　弘夫.片岡　龍（教授、准教授）

講義コード：LM13502, **科目ナンバリング：**LHS-PHI607J, **使用言語：**日本語

１．授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅰ

２．Course Title（授業題目）：

Varies issues of history of Japanese thought1

３．授業の目的と概要：

研究参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

４．学習の到達目標：

日本思想史の研究方法の会得と深化

５．授業の内容・方法と進度予定：

１、ガイダンス
２、研究発表１
３、研究発表２
４、研究発表３
５、研究発表４
６、研究発表５
７、研究発表６
８、研究発表７
９、研究発表８
10、研究発表９
11、研究発表10
12、研究発表11
13、研究発表12
14、研究発表13
15、研究発表14

６．成績評価方法：

論文［80%］　　出席［20%］

７．教科書および参考書：

教室で指示する。

８．授業時間外学習：

プレレジュメは１週間前、本レジュメは１日前までに完成するよう準備する。

９．その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／ History of Japanese Thought(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 ５講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：佐藤　弘夫.片岡　龍（教授、准教授）

講義コード：LM23502, **科目ナンバリング：**LHS-PHI608J, **使用言語：**日本語

１．授業題目：

日本思想史の諸問題Ⅱ

２．Course Title（授業題目）：

Varies issues of history of Japanese thought2

３．授業の目的と概要：

演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、学期末にはそれを全員が提出する。

４．学習の到達目標：

研究論文の作成

５．授業の内容・方法と進度予定：

１、ガイダンス
２、研究発表１
３、研究発表２
４、研究発表３
５、研究発表４
６、研究発表５
７、研究発表６
８、研究発表７
９、研究発表８
10、研究発表９
11、研究発表 10
12、研究発表 11
13、研究発表 12
14、研究発表 13
15、研究発表 14

６．成績評価方法：

論文［80%］　　出席［20%］

７．教科書および参考書：

教室で指示する。

８．授業時間外学習：

プレレジュメは１週間前、本レジュメは１日前までに完成するよう準備する。

９．その他：